



米子市埋蔵文化財センターたより

第23号

2016年12月



飛鳥時代の竪穴建物跡や中世の掘立柱建物跡を発見!

- 日南町新屋小タイ田遺跡・川添遺跡 -



小タイ田遺跡東区竪穴建物跡S I O 2



川添遺跡の掘立柱建物跡

(一財) 米子市文化財団埋蔵文化財調査室では、7月末から始めた新屋小タイ田遺跡と新屋川添遺跡の発掘調査をほぼ終え、12月4日には現地説明会を開催しました。

調査の結果、小タイ田遺跡西区からは道路状遺構と水路跡を発見し、多量の鉄滓や炉壁片を検出しました。残念ながら時期を確定することはできませんでしたが、近代以降と推定されます。東区からは竪穴建物跡2棟、掘立柱建物跡2棟、土坑2基、土器溜まり1ヶ所と多数の柱穴を発見しました。出土土器から、7世紀代の飛鳥時代の遺構と考えられます。竪穴建物跡S I O 2は一辺4.4mの4本の柱穴をもつ方形プランの建物跡で、床面から押しつぶされた土師器の甕や多数の炭化材が検出されました。火災にあったか、廃棄する際に燃やしたものかも知れません。

川添遺跡は、小タイ田遺跡から南400mの尾根裾に位置しています。尾根上には、中園遺跡と家の奥鉦床タタラの存在が知られています。

川添遺跡からは、掘立柱建物跡1棟と多数の柱穴、石敷遺構2基が発見されました。このうち一列に並ぶ4本の柱穴には、径20cmの柱根が残されており、柱間の間隔が不規則であることから柵列ではないかと考えています。出土品は中世の青磁や白磁などの陶磁器が検出されており、本遺跡は毛利氏と尼子氏が覇権争いをしていた戦国時代(16世紀代)の遺跡と考えられます。

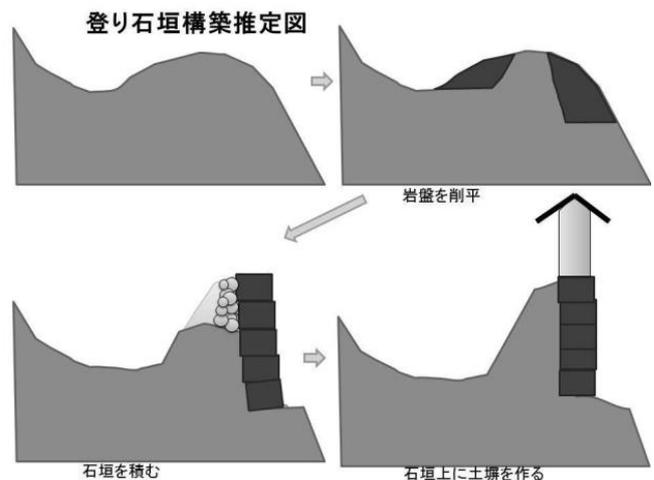
このたびの両遺跡の調査結果から、新屋地区では飛鳥時代には集落が形成されており、戦国時代には青磁など輸入陶磁器を使用した有力な国人たちの存在が推察されます。(平木)

発掘調査情報

一米子城の謎の解明にむけて その6

今年度の史跡米子城跡の発掘調査も、ほぼ終わりです。調査の結果、登り石垣は内膳丸側の御門から天守遠見櫓にかけて、少なくとも約 40m は遺存していることがわかりました。その構造については、尾根頂部の地形を利用し、中海側（西側）の岩盤を L 字状に削平し、そこに荒割りした石を 6 段以上は積んでいました。石垣の内側（東側）は尾根の高低差を利用し、その上に土塁を構築して石垣を積んでいますので、高さは中海側では 2.5m もあります。

出土遺物から、石垣の上には瓦葺きの土塀が構築されていたようですので、とても防御力は高かったものと思われます。また、この登り石垣は内膳丸側の石垣と一連の造作と考えられることから内膳丸についても築城当初は登り石垣の一部であった可能性が考えられます。以上のことから、米子城は山頂の天守を中心に、尾根等の自然地形を生かした防御構造をもつ戦国時代的な城であることがわかってきました。（文化課 濱野）。



整理室たより

米子城跡出土品の整理

—平成28年度試掘調査—

平成28年度の「米子城跡保存整備事業」に基づき、内膳丸から本丸遠見櫓にかけて延びる登り石垣の確認調査が米子市教育委員会によって行われました。

登り石垣に設定された3か所の試掘トレンチからは、多量の瓦などを主体にコンテナ14箱もの遺物が検出されました。

瓦は、平瓦、軒丸瓦、鳥ふすま瓦などが見られ、登り石垣に設けられていた土塀や遠見櫓から落下埋没したものと考えられます。瓦の文様も違いが観られることから、時期の違いが観察されます。今後、分類整理を進めることにより「登り石垣」の構築時期などを解明する手がかりになると考えられます。（佐伯）



整理中の米子城の瓦

福岡遺跡は、米子市淀江町福岡字寺田他の水田下に所在する遺跡で、1990年から1991年に国道9号米子道路建設に伴い2万㎡が発掘調査されました。道路は淀江平野のデルタ地形から扇状地を南北に縦断しています。

福岡遺跡では弥生時代から中世にかけての遺構が確認されており、主体は弥生時代中期後葉から古墳時代の256基もの土坑です。土坑の性格は、粘土採掘穴と考えられ、土器製作の生産遺跡として注目されます。

遺物は弥生時代中期の多数の土器のほか、櫓、竪杵、掘削具、平鋏、匙等の木製品が出土しています。(小原)



福岡遺跡 1・2区全景

コラムー鎌倉時代を掘る②

ー小波城跡ー

小波城跡は、米子市街地から東7kmの小波集落南側の山麓端小波字下原田に所在する中世の城跡です。

1996年に町道建設に伴い600㎡が淀江町教育委員会により発掘調査され、深さ3.5m、上幅6mの堀切と、高さ0.7mの土塁、溝、建物跡などが発見されました。堀切跡から鎌倉時代の土師質土器や陶磁器が検出されています。



小波城跡の堀切跡

発掘調査の際には堀跡で焼土層が確認され、「異本伯耆之巻」などの文献に伝えられる元弘の変の際の火災の痕跡と推察されるなど、発掘成果と文献との一致を物語る中世城館跡として注目されました。(小原)

センター・資料館日誌

- 10月 1日(土) 米子城フォーラム「米子城わくわく講座」が米子市と共催で開催された。
- 10月 6日(木) 出雲市の花谷氏が上淀廃寺の瓦資料調査で来館された。
- 10月 9日(土) 考古学講演会「大山山麓と長者原の旧石器人たち」を開催した。講師は高橋章司氏。
- 10月16日(日) 史跡ガイドウォーク「江府町の史跡を巡る」を開催した。
- 10月19日(水) 榎原考古学研究所研究員が百塚第1遺跡の炭化米の返却で来館された。
- 10月22日(土) 朝鮮陶磁器勉強会が研修室で開催された。
- 10月25日(火) 出雲市弥生森博物館花谷氏が上淀廃寺瓦資料借用で来館。
- 11月 4日(金) 尾高城跡ガイドを行った。
- 11月 5日(土) 米子市文化財団フェスティバルで「火起こし体験」コーナーを出店した。
- 11月11日(金) 福生西公民館歴史講座へ出前講義を行った。
広島大の学生が妻木晩田遺跡の土器調査で来館された。
- 11月13日(日) 考古学講演会「縄文時代の山陰」を開催した。講師は幡中光輔氏。



- 11月14日(月) 朝日新聞社の宮代氏が馬具調査で来館された。
- 11月15日(火) 鳥取県埋センター浜田氏が漆塗土器調査で来館された。
- 11月19日(土) 城下町科研・米子研究集会を米子市教育委員会と共催開催した。
- 11月23日(水) 考古学教室第2回「縄文土器紋様を観る」を開催した。



- 11月28日(月) 朝日新聞社の宮代氏が馬具調査で再度来館された。
- 12月 4日(日) 日南町小タイ田・川添遺跡の現地説明会を開催した。

編集後記

早いもので2016年も年末となり、寒さが一段と増してきました。今年は、米子城跡の調査や城関連の講演会やシンポジウム、イベントなどが数多く行われて、城ブームが米子にもやってきた感があります。

来年も続くことを期待しています。

発行日 平成28年12月21日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp